

図の上部には、次の口上がある。

東西ノ高うはござりますれども役者の義にござりますれば

御免を蒙りまして四方御鼻肩の御かたノ様へ御礼の口上 ずらりと

申上奉りまする扱いづれも様御存のごとく未熟不調法の私先達で

御当地へ罷下りましたる処上み方生れの下 手役者誠にこれが

下世話に申す犬もあるけば棒とやらにて いづれも様の御鼻肩御とり立

且わ私実父古人歌右衛門の名跡相続のきぼによりまして

永当ノと御入ら口御評判よろしき段乍恐御江戸 広大の思しめし

厚き御なさけの程いか斗か難有仕合に奉存升したがひまして

先達て無抛わけ合ござりましておなこりをしくもかみ方表へ

罷登りましたる処御江戸にて御鼻肩御評判の御影を

もちましています ノ上方表御見物さま方の思しめし厚く

御とり立の御余光私身にとりましてはいか斗か

誠にこれも御江戸御鼻肩様かたの御影と有がたい仕合に

奉存升扱私義も上方表にをりましてもとかく朝夕

ねざめに御鼻肩御連中様かたのことわすれがたく何とぞ

いたして今一度御目見へ仕たくかね ノ願おりましたる折ふし

ふといたしたる持病さしおこりはなはだ大病になやみましたる処

さいはひに全快ぜんくわいいた□□□たれば生れかはりたる御目見え

なかく／＼上方にをる□にあらずと存ましてすぐさま此たひ

御当地へ罷下りまして「さりますこれと申すも

御江戸御鼻眞のいづれも様へ生前せうぜんの御目見へ再ふたたびび

仕度心ざし相とけし事と私身にとりいか斗か

有かたき仕合に奉存升

いよ／＼相かはらず

新狂言の節は

大入御評判のほと

ひとへに／＼

希上

奉り升

中村歌右衛門